

令和5年度事業報告並びに活動決算書

1. 令和5年度事業全般の経過

当法人の令和5年度事業については、事業計画に基づき取り組みを行いました。

農地の有効活用として継続して進めてきた大豆・そばの栽培については、機械利用事業により栽培の支援を行い、大豆は生産から販売までの一連の事業支援を行いました。年々栽培者及び作付面積が減少している状況である中で、令和5年度の大豆栽培は播種後の天候は順調に推移したものの、カメムシ類の多発による被害によりサヤに実が入らなく、高温による訪花昆虫の活動低下及び干ばつによる収量の低下もあって全体にかなり収穫量は減少した。

地域農業の将来の発展を目指す事業では、農業振興センターの「果樹新技術等研究プロジェクト」において設置した下久堅モデル園の管理作業をJA等と協力して行いましたが、前年がカラスの食害により全滅となってしまったため防鳥網の設置を行い、初めて収穫ができました。又、農産物栽培加工研究会等と連携し新たな技術・農産物の研究等農業振興の取り組みを行いました。

2. 農業の担い手確保と育成

多様な担い手の確保・育成

短期間に作業が集中し雇用者を求める農家が多い市田柿作業の労働力確保に向け、市田柿加工作業及び剪定講習会を農業振興センターと協力し開催しました。特に加工作業講習会では始めて体験する方もいましたが、新たな労働力として期待する講習会となりました。

移住就農支援事業に於いては、1名の地域おこし協力隊員の支援を行いましたが、残念ながら1ヶ月経たないうちに辞退となってしまいました。

3. 農地の有効活用

(1)大豆・そばの生産支援

農地の有効活用を目的とした大豆・そばの栽培は、普及拡大を目指した支援の取り組みを引き続き実施しました。栽培技術向上への取り組み、大豆・そばの種子申込受付及び播種・収穫作業の機械利用事業による栽培者への支援を行いました。

【主な事業】

- 令和5年産大豆・そば栽培説明会 R05.03.23に2回開催し、22名の参加
- 大豆・そば種子申込受付 申込者：大豆 22名 256kg（前年23名 242kg）
そば 9名 130kg（前年8名 121kg）

① 大豆契約栽培の取り組み

旭松食品(株)との連携による大豆「つぶほまれ」の契約栽培を継続しました。生産拡大には栽培技術向上を図ることが重要であり、病虫害防除の徹底等を南信州農業農村支援センター及びJAみなみ信州の協力により、圃場巡回指導を実施し品質向上に取り組みました。本年度はカメムシの大量発生や高温干ばつの影響もあり、収穫量がかなり減少してしまいました。品質面では、農産物検査にて2等となる出荷が4.9%、3等が75.2%と前年に比べてやや良となりました。販売単価については、旭松食品(株)との交渉により昨年度と同様の価格での販売となりました。

【主な事業】

- 大豆播種前契約者は15軒
- 8月3日 圃場巡回指導の開催（13件）
- 12月22日 第1回大豆検査・出荷受入・販売
- 1月23日 第2回大豆検査・出荷受入・販売

【取扱数量】

○農水省農産物検査基準に基づく検査結果 (市外を含む全出荷分)

等級	2等	3等	合格	規格外	計
数量	140kg	2,140kg	564kg	0kg	2,844kg
比率	4.9%	75.2%	19.8%	0%	100%

○大豆契約栽培出荷量の推移

		H30年	R01年	R02年	R03年	R04年	R05年	前年比
市内	件数	12	12	11	11	12	8	67%
	面積 (a)	170	211	159	353	216	131	61%
	数量 (kg)	2,514	3,750	2,034	4,340	2,198	1,224	56%
市外	件数	10	8	9	11	14	7	50%
	面積 (a)	241	231	265	367	472	347	74%
	数量 (kg)	4,020	2,900	5,200	6,860	4,780	1,620	34%
総数	件数	22	20	20	22	26	15	58%
	面積 (a)	411	442	424	717	688	478	69%
	数量 (kg)	6,534	6,650	7,234	11,200	6,978	2,844	41%

② 播種機及びコンバイン他機械利用事業

大豆・そば栽培の播種・収穫機械利用については、JAみなみ信州との業務委託により、利用効率の良い播種と刈取りを行い生産者への支援を行いました。コンバイン機械利用事業の利用者は栽培者の減少と共に減少傾向にある。

また、JA川路事業所へ設置している大豆の選粒機については件数では前年並みの利用があったが、数量は半分であった。

【機械利用取扱実績】

税込み

		件数 (戸)	面積 (a)	利用料金 (円)
市内大豆	播種	4	58.0	45,100
	刈取り	10	98.0	132,660
市内そば	刈取り	22	346.0	388,300
飯田市 計		36	502.0	566,060
市外大豆	播種	0	0.0	0
	刈取り	0	0.0	0
市外そば	刈取り	4	104.0	189,200
市外 (町村) 計		4	104.0	189,200
合計		40	606.0	755,260

➤ 大豆選別機利用：利用者 11 名 (前年 13 名) 利用数量 1,030kg (前年 1,910kg)

(2) 荒廃農地の発生防止

遊休農地等を再生し有効活用するための整備作業に歩行型草刈機 (ハンマーモア) 等の貸出しにより、農地の保全・荒廃防止の取り組みを支援しました。利用率が低いことから、昨年度

より自己所有の農地の再生・管理についても有料で利用できるように貸出し要領の改訂をしました。(1回につきハンマーモア 4,000 円、ロータリーモア・スパイダーモア 3,000 円、リモコンモア 6,000 円)

- ハンマーモア貸出利用件数 24 件／整備作業面積 508a (前年 17 件／340a)
(内利用料の減免件数はハンマーモア 3 件／80a)
- ロータリーモア 17 件／221a スパイダーモア 4 件／37.5a
- リモコンモア 6 件／165a 講習会は 8 会場

(3) 市民農園運営

令和 5 年度から農ある暮らしを推進するため、及び市街地の農地を有効利用するため、市民農園を開設し管理運営を行いました。利用者の農業経験が少ないことから、支援センターの協力で栽培研修を行いました。16 区画のうち 10 区画の利用にとどまり、もう少し周知が必要であったのと、共有スペースの草刈り等の課題が残った。

4. 地域農業の将来の発展を目指す

◇プロジェクト事業の詳細は、農業振興センター本部会議資料にて確認をお願いします。

(1) 果樹新技術等研究プロジェクト

飯田市農業振興センターの令和元年度事業として、果樹作業省力化を目指した新技術の研究、導入に向けた果樹新技術等研究プロジェクトにより梨・桃のモデル圃場の設置が進められた。新たに伊賀良に梨のモデル圃場及び座光寺に桃園を設置して防鳥網やトレリスの設置及び管理作業を J A・園協と連携して行いました。

(2) 農産物栽培加工研究会との連携

研究会が進めている玉ネギの新たな作型栽培(セット球栽培)実証試験は、栽培方法の育苗・定植時期・栽培・収穫等に一定の成果が得られたことから普及段階へ移行し、農業振興センター広報「みどりの風」にて玉ネギセット球の自家用栽培希望者を募集し 61 名(10,000 球)の申込者に対する栽培説明会等を協力して行いました。(前年度は 46 名 8,000 球)また、年 2 作栽培が可能なジャガイモ(デジマ・ニシユタカ)、さつまいもの栽培及び加工等、今後の農地の有効活用につながる品目を研究する取組みを連携して行いました。さつまいもは冬季の保存が出来ず加工を断念した

令和5年度 特定非営利活動に係る活動計算書

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

特定非営利活動法人 みどりの風
(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取補助金		
受取補助金	1,702,544	1,702,544
2 受託料収入		
受託料収入	0	0
3 事業収益		
事業収益	1,714,162	1,714,162
4 その他収益		
雑収入	28,000	
受取利息	34	28,034
経常収益計		3,444,740
II 経常費用		
1 事業費		
① 人件費		
給与手当	41,244	
法定福利費	0	
人件費計	41,244	
② その他経費		
種苗代	0	
委託料	1,743,810	
消耗品費	122,616	
燃料費	66,801	
賃借料	25,510	
リース料	484,770	
修繕費	184,770	
支払手数料	12,430	
旅費交通費	0	
支払保険料	81,850	
租税公課	36,900	
負担金及び交付金	104,760	
減価償却費	452,668	
その他経費計	3,316,885	
事業費計		3,358,129
2 管理費		
報酬費	183,700	
雑費	97,711	
管理費計		281,411
経常費用計		3,639,540
税引き前当期正味財産増減額		-194,800
法人税、住民税及び事業税		71,000
当期正味財産増減額		-265,800
前期繰越正味財産額		7,607,143
次期繰越正味財産額		7,341,343